

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面を、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年6月11日(水)

明日から宿泊教室

5年生は明日から宿泊教室に行きます。子ども達の表情を見ていると、楽しみにしている様子です。宿泊教室は5年生にとって大きな学びの体験となります。まず「環境学習」です。私もこれまで水俣には何度もお邪魔して、学びを深めてきました。それでもまだ学びが足りないように感じます。

何度も邪魔しても思うのは「正しく知る」との大切さです。正しく知ることで正しい判断をすることが出来ます。人間は、正しく知らない不安になります。不安になることから逃れるために目に見えるものから距離を取るようになりま

【雑感】梅雨を有意義に過ごす「ゲームと読書」梅雨、雨で外出が億劫になり、子ども達はゲーム三昧!?!? そんな生活が心と体に良い訳がありません。さて、ゲームのおもしろさについては私も体験しておりますので十分理解しています。25年前、甥っ子からゲームを借りてやってみました。ゲーム機本体も甥っ子に借りてゲーム開始。どうしたことでしょ、中々ゲームがやめられないのです。時間を決められないのについていけなくなってしまったのです。そして今、時計を見ると午前7時…。そんな生活が数日過ぎました。

熊本には学べる場所がたくさんあります。学ばうという気持ちが大切なですね。宿泊教室では「学ぶ」「学びたい」という気持ちを持ち続け、正しく知り、それを発信していくて欲しいです。明日から2日間、学びと掛け替えのない思い出をたくさん得てほしい。行って来よう！

話の飛躍してしまつたのですが、私は子どもの頃に伝記を読むのが好きでした。その中でも、日本で初めてノーベル賞を受賞した「湯川秀樹」の話は面白かったです。湯川秀樹博士の「中間子理論」は物質を構成する最も小さい粒「原子」、その中に「中間子」というものが存在するといふのです。極初期の顕微鏡の頃は植物を見てもある程度以上は見えないから、もっと拡大したらどうなっているのだろうって世界は、想像するしかないんです。だからこそ創造力によって、電子顕微鏡が生まれるわけです。今はもっと詳しく見たいといふのは電子顕微鏡でいいよ。って言われて想像力なんて働かないんですよ。ね。湯川秀樹博士の「中間子理論」なんて結局のところ想像の産物であつて、それが後になって確認されるわけですから、新しい発見などは、みんな想像の産物で言えるのでは無いでしょうか。要するに想像力が先行していないと、新しい発見ができていくという事です。そして湯川秀樹博士は「中間子理論」を発表するにあたり、相対数の読書と学習があったと聞いています。新しい発見や知識の習得には、基礎基本の知識と努力に裏付けられた、想像力と創造力が必要なのです。ここで話をもう一度戻しまして、ゲームやテレビ、ネット等の情報は、視覚的且つ受動的且つ流動的な情報であり、想像力や創造力が発達するのを阻害します。ゲームやテレビ、インターネットがあるのが当たり前のようになってしまった今日、ゲームって本当に必要なのではないのか? それよりも、大切なものがあるように思えます。我々が目指す「質の高い学び」は、知識やスキルを自ら学び取るという子ども達の姿を目指してつづきます。読書を通じて、間違えな「質の高い学び」に近づいて来よう。

シリーズ「自分を語る」#18

子ども時代の事を書くと、保護者の皆様からの反響が大きく嬉しく思っています。子ども達が真似しないかと多少の不安も抱えております。保護者の皆様、それは協力をお願い致しますね。

ついには、最近の子ども達は火を使う機会が殆ど無いようですね。我が家で、ケキのロウソクに火を点けるのは大人の役目でしたが、数年前、娘に占付けさせようとしたところ、何と怖がるのです。驚きました。アルコールランプに火を点けたとは無かつたか?と思わず叫び、「だつて、怖いもん!」だつたのです。我が子が子どもの頃は、このころのマッチを持ち出して、爆竹で遊んだり、花火をしりしたのですが…。そして、先生に怒られるんです。私の両親の世代は「焚火」で遊びのは当たり前だったと言います。15歳の時に、父の使役方等々、全てを大人が教える必要はなくなった時代のおかげで、そのころ「肥後の守」といって小刀で遊んだことがある人は、我が家の世代には相当数いらっしゃるのではないのでしょうか。山の中や野原での遊びに使っていてもあります。鉛筆を研ぐ時にも使います。遊び道具を作る時にも使いました。今では「肥後の守」はホームセンターにも売ってあるのでしょうか? 昔は駄菓子屋にも売ってあったのですが、このような話題を提供しながら、今では刃物の扱いも危険だからという理由で禁止になってしまったのが始まります。

先ほど爆竹のお話をしましたが、我が子が子どもの頃は当然の如く駄菓子屋や地域の商店に売ってありました。買わないはずがありません。で、どんな遊びをしていたのでしょうか? 私の場合、団地に住んでいましたのであまり派手なことが出来る生活環境にありませんでした。爆竹に着火後、ただ長く手に持っていることが出来るかなんて遊びでは、投げる瞬間耳元で破裂し、耳がキーンとなることや指先の怪我等は日常茶飯事でした。そこで、先般お話しした地域の山、岩倉山に出かけていき、そこで様々なことを行動に移しました。爆竹の威力が知りたいというので、山の中で小枝に火を付けた。パン!という音と共に枝が微塵に! それを目の当たりにするや色んな実験をしてみたくなものですね! 丁度いい所に、カナブンが飛んできました。早速捕まえて…。ここから先は書きませんが、気になる方は澤田までお問い合わせください!! そうそう、女の子の遊びは「入飛ひ」等々覚えていますが、未知の世界でしたわ。マンガ本を読んでもいました。確か「マーガレット」ってか「なかよし」ってか? この世代の保護者の皆様もいろいろ覚えておられるのでは? この文章を書きながら懐かしさを感じています。(ついで)